

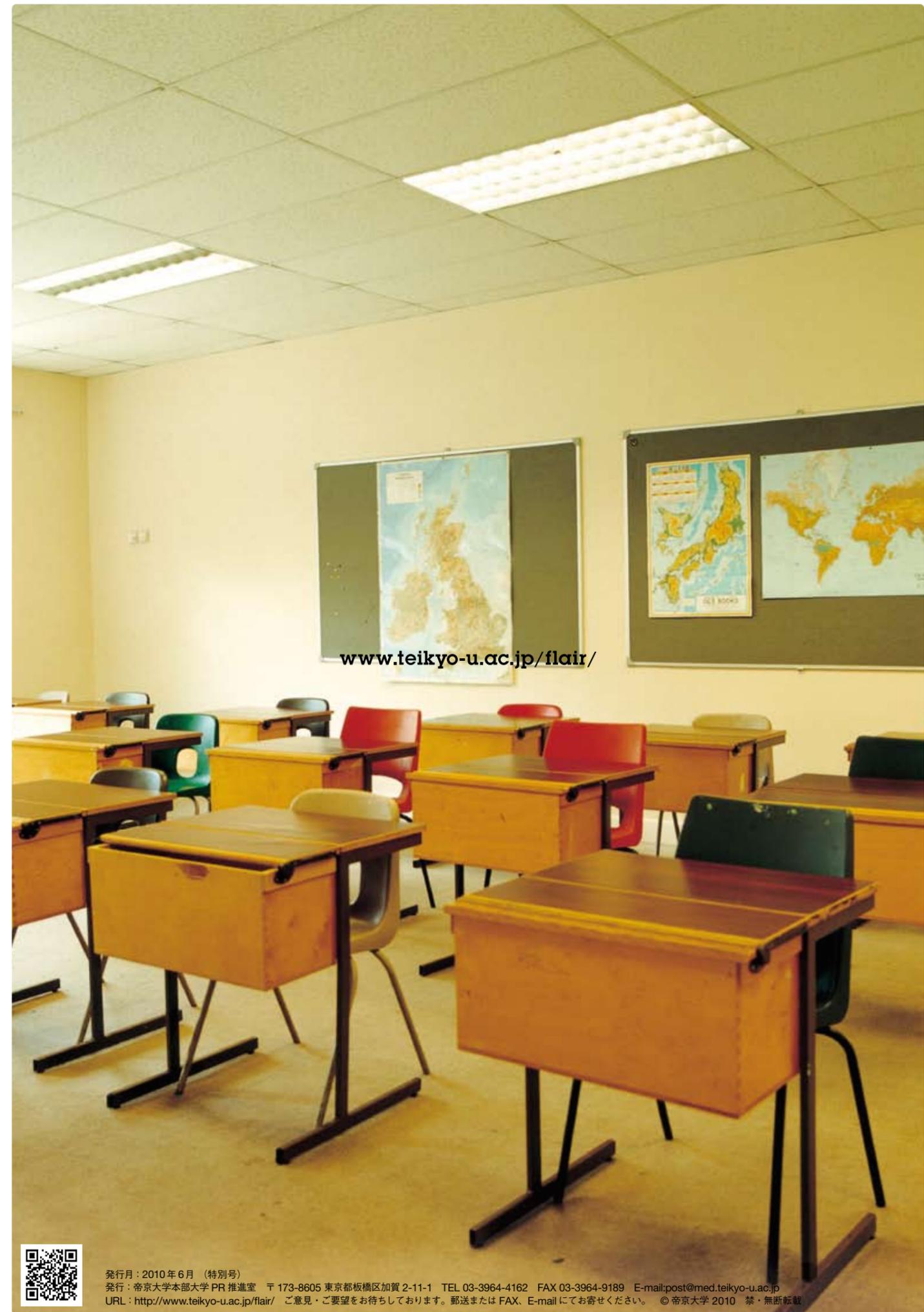
Flair

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]
TAKE FREE

June 2010
SPECIAL
ISSUE
THE TEIKYO SELF

Teikyo Study Abroad Book **ホリデー留学のすすめ**



www.teikyo-u.ac.jp/flair/



発行月：2010年6月（特別号）
発行：帝京大学本部大学PR推進室 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-4162 FAX 03-3964-9189 E-mail:post@med.teikyo-u.ac.jp
URL：<http://www.teikyo-u.ac.jp/flair/> ご意見・ご要望をお待ちしております。郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。 © 帝京大学 2010 禁・無断転載

Contents

04 Germany

帝京大学グループベルリンキャンパス[ドイツ]

10 United Kingdom

帝京大学グループロンドンキャンパス[イギリス]

16 Korea

水原大学校[韓国]

22 Outline of Going Study Abroad

留学までの流れ

23 Interview with President

学長が語る、留学のこと

Teikyo Study Abroad Book

ホリデー留学のすすめ

「ホリデー留学」とは、帝京大学が主催する15～20日間の短期留学プログラムのこと。

大学独自のキャンパスを構えるベルリンとロンドンのほか、2010年から留学先として新しく韓国が加わりました。

長期の休みを利用して現地の歴史や文化に触れたり、言語を学びながら人々との絆を深めたりできる

またとないチャンス。この冊子では、そんなホリデー留学を体験した先輩たちのレポートをお届けします。

Program Schedule

	午前	午後
1日目	ベルリンキャンパスへ到着	
2日目	オリエンテーション	
3日目	授業	ケーベニツ市庁舎／ケーベニツ宮殿など見学
4日目	チェコ共和国・プラハへバス旅行	
5日目		
6日目	授業	ドイツ歴史博物館見学
7日目	授業	アレクサンダー広場、赤の市庁舎などを見学
8日目	授業	サンサーシ公園などを見学
9日目	授業	ポツダム広場などを見学
10日目		
11日目	オランダ・アムステルダム or オーストリア・ウィーンへ旅行 (興味のあるどちらかの都市を選択)	
12日目		
13日目	授業	自由行動
14日目	授業	ヘルガモン博物館見学、オペラ鑑賞
15日目	授業	ブランデンブルク門、連邦国会議事堂などを見学
16日目	授業	自由行動
17日目	最終試験、修了書授与	自由行動
18日目	ドイツドレスデンへバス旅行	
19日目	自由行動	
20日目	日本に帰国	

Germany

Teikyo University Group
Berlin Campus



帝京大学グループ
ベルリンキャンパス【ドイツ】

素敵な仲間、そしてドイツ語。 新しい出会いが詰まった3週間。

芸術の街であるドイツの首都、ベルリン。
言葉や文化の違いに戸惑いながらも人の温かさに触れて、
学生たちもひと回り大きくなりました。

映画のワンシーンのような
絶好のロケーションの中で。

屋根や壁面に、バステルカラを用いた建物の数々。まるでおもちゃ箱から抜け出してきたような、かわいらしい街並みにため息が出る。造形の美しさもさることながら、目を奪われるのはその都市にあふれる豊かな色彩だ。「イーストサイド・ギャラリー」と呼ばれ一部保存されているベルリンの壁にも、崩壊時に各国のアーティストが集まって描いた絵が鮮やかに残されている。ベルリンの壁は東西冷戦の象徴としてだけでなく、ここが「芸術の街」であることを証明しているのである。アート以外にも、ベルリン・フィルハーモニーをはじめとする

る8つの大きなオーケストラと3つの歌劇場を有し、世界的に有名な音楽家を多数輩出している街・ベルリン。最高のエンターテインメントを体感したいのであれば、この場所を選んで間違いないだろう。

そんなバックグラウンドを持つ都市の中心部から南東へ移動すると、田園的なツォイトナー湖畔が見えてくる。その中に位置するのが、帝京大学グループベルリンキャンパスだ。周囲を取り巻くのは、白樺などで構成される混交林。運が良ければ、そこから湖の向こうに落ちる大きな夕陽を見ることが出来る。映画のワンシーンのような幻想的な風景に、思わず魅了されるはずだ。

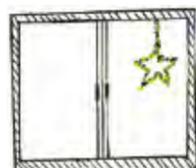
ベルリンキャンパス内には宿

泊施設が併設されており、国内外からたくさんの人々がセミナーや研修などで訪れる。帝京大生たちも食堂やバーに集まる滞在者やキャンパススタッフたちと仲良くなり、英語やドイツ語を通じて意思の疎通を図っていた。短期間でドイツ語を習得するのは至難の業だが、授業で習った挨拶などはすぐに覚えて腕試しをしていたようだ。

この年に用意されたプログラムではプラハ、加えてウィーンとアムステルダムのうちらかを選択して訪問。比較的少人数、かつツォイトトリップが2度も組み込まれていたこともあり、参加者同士はすっかり仲良しに。誰もが「日本に帰りたくない！」と口にするほど、充実した時間が流れていた。



ブランデンブルク門



14:30

世界的なニュースになった
ベルリンの壁跡と対面。

1961～1989年、東西ドイツを隔てていた壁。「壁があったから、近くビルには全然陽があたらなかった」と当時を知るピーターヴィッツ先生だからこそリアルな現実を教えてください。

14:00

ドイツの歴史が詰まった地に、
思わず周りを見渡す一瞬。

次の見学地に移動。後ろに見えるのがブランデンブルク門。東西ドイツ統一の際は、何千人ものドイツ人がこの場所を訪れ、国境解放を祝ったという。



16:00

街中の広大な敷地に建つ、
2711基の石碑たち。

過ちを忘れないようにと建てられた、ユダヤ人のための記念碑。高さは微妙に異なる。石碑の影に隠れると、何ともいえない恐怖と焦燥感に駆られる。



15:00

ドイツの愛いと喜びを
背負って建つ国会議事堂。

目の前の建物に書かれている「Dem Deutschen Volke」とは、「ドイツの人々のために」という意味。統一後の開放的なドイツ政治を象徴する斬新なデザイン。



A Day Schedule

8:15～9:00

朝食

9:00～10:30

授業 / 英語

10:45～12:15

授業 / ドイツ語

12:15～13:00

昼食

13:00～

ベルリン市内見学へ
ブランデンブルク門→ベルリンの壁跡→連邦議事堂→虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑→ベルリン・コーミッシェ・オーバーナード→ショッピング→キャンパス帰宅

19:00～20:00

夕食

「ここから向こうは西ベルリン、こっちは東ベルリンだった」と教えてくれる先生。学生たちは壁跡を囲うように足を乗せ、上から仲良くシャッターを切った。「ハイ、(移動を) オネガイシマー」と言いながら、先生は次に国会議事堂へ連れて行ってくれた。ヒトラーの首相就任後にユダヤ人差別が始まったことや、東西統一後に国会議事堂を修復し、ベルリンが首都として新たな道を歩み始めたこと。それらを話してくれた先生は「ここはドイツの未来とともに、良くなりたいドイツの歴史を表しているんだ」と付け加えた。

最後の見学場所は、ホロコースト記念碑(虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑)。およそ2万平方メートルの敷地に2711基の石碑が整然と建てられており、その間は自由に行き来することができる。「ここへ入ったら出られないかもしれない」という焦りや緊張を感じてほしい」という先生の言葉には、かつて迫害されたユダヤ人と同じ気持ちを胸に刻んでほしいというメッセージが込められていたに違いない。

終始英語で行われる解説に一生懸命耳を傾け、ベルリンの歴史をこの目で見ながら、学生たちは何を感じたのだろう。最後はチョコレートショップで、ドイツの甘い香りに包まれながら一日の幕が閉じた。

A Day Reporting

とある1日に、密着しました。

言語を学ぶだけでなく、この国の歩みも目で見てほしい。そんな現地の先生たちの思いから、午後はベルリンの市内見学へ。痛ましい過去や発展の歴史の、すべてが詰まった街でした。



9:00

授業は一方通行ではなく、
お互いの顔を見て。

学生同士が対面して座り、進められる授業。ドイツ語の時間も英語も、先生が質問を投げかけ学生が答えるという、コミュニケーションに重点が置かれた形式がとられている。



8:15

食事をする場であり、
憩いの場でもある食堂。

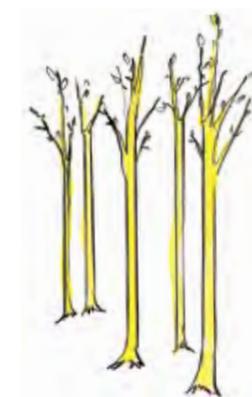
決められた時間内であれば、自由に食事をとることができる。とにかく明るいドイツ人の厨房スタッフが給仕してくれるから、毎朝眠気もどこへやら。



13:00

キャンパス近くのバス停から
路線バスに乗り込む。

ベルリン市の中心街へはバス、トラム、電車を乗り継いで40～50分ほどで着く。乗車券はすべて同じなので、1日乗車するなら4.4ユーロのday ticketも。



先生と一緒に行く、ベルリン歴史ツアー。

「グリーンモルゲン！」
厨房スタッフと元気に挨拶を交わす、帝京大生たち。彼らの朝は、キャンパスの食堂から始まる。外はさっぱり、中はふっくらとした温かいパンに、ハム、チーズ、ヨーグルトが定番の朝食メニュー。毎日彼らの引率をしてくれるピーターヴィッツ先生と一緒に朝食を楽しんだあとは、彼が担当する授業が待っている。

1 限目は英語。先生が「みんな、昨日は何をした？」と学生に英語で質問を投げかける。「ベルガモン博物館に行きました」「他には？」「ええと...」
わからないことがあっても黙るのではなく「わからない」など、とにかく発言しなさい、というのがベルリンキャンパスの教え。みんな戸惑っているかと思いきや、緊張の色は少しも感じられなかった。終始和やかな雰囲気で行われるアットホームな授業が、学生たちの心を和ませているのだろう。

昼食のあとは路線バスに乗り込んで、トラム(路面電車)の駅へ。グリーナーナウ駅で電車に乗り換え、ブランデンブルク門へと向かう。まずは、観光地としても有名なこの周辺を見学。そこから少し歩くと、足下にベルリンの壁跡が残されていた。

学生に「間違ふことは
恥ずかしくない」と教えた。

30年以上ドイツで暮らす三枝子先生が、帝京大生にドイツ語を教えるのは2回目。自身がドイツ語を習っていたときの経験が、授業に生きていると話す。「シチュエーション別の会話を丸覚えしても、テキスト通りの言葉を使う機会はほとんどありません。実際に、人と話しながら学ぶことが重要なんです」
ヨーロッパ人は、つたない言葉でも身振り手振りで意志を伝えようとするという。だから彼女の授業でも、発表がメインだ。「たった12時間だけど、話すことに対する勇気付けをしてあげられたらと思っています」



フィッシュミ 枝子先生
Miko Fisch

「ドイツには『先生』という敬称をつける習慣がありません。ただ名前を呼ぶだけ。だから気軽に一緒に話しましょう！」という気持ちで授業を進めています」



ローター・ピーター・ヴィッツ先生
Lothar Peterwitz

今までに中国や日本、ロシアなどに留学経験のある彼は「就職後や結婚後はまた見識が違ふので、柔軟な学生時代に外国で学ぶことはとても大事だと感じています」と話す。

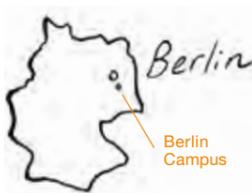
言葉や人種が違っても、みんな同じ人間です。

20年前から帝京大生の世話をしながら英語を教えているピーター・ヴィッツ先生。近年は自立した子が増えたと話す。「ただ日本の学生は、語彙力・文

法力はあるのにとてもシャイ。だから話す機会をたくさん作ってあげたい、と思いますね」
今までに約2千人の日本人学生がキャンパスを訪れたという。

各国からもたくさんの学生が集まるため、国際交流も盛んだ。「国は違ってもみんな同じ人間。それをこの場所ですべて知ってもらえることが、一番の誇りです」

Location



Teikyo University Group Berlin Campus

Schmöckwitzer Damm 1G
D-12527 Berlin Germany
tel: +49-(0)30-675-040

School



仲良くなった人と触れ合えるスペースが楽しい。

寮には、ちょっとした料理ができる簡易キッチンやランドリーも完備。レジャールームやスポーツ施設で、仲良くなった人と遊ぶこともできる。

Room



留学生用の部屋は、シンプルでヨーロッパ的。

2段ベッドとデスク、本棚などが用意されたシンプルな2人部屋。冬のベルリンは寒さが厳しいため、横幅の大きいオイルヒーターも。

Food



ボリュームたっぷりのラビオリがうれしい夕食。ピクルスは定番。



朝食はハムやチーズ、パンの種類も豊富。温かいパンに心が和む。



Germany

外国人と触れ合うのは、難しいことじゃない。

言葉の壁は高いが、外国の壁は薄くなった。
海外に行くのは初めてだったという青木さん。「英語が学べて、かつ長い期間滞在できる場所がいい」と、3週間のプログラムが用意されたベルリンキャンパスを選んだ。
「ベルリンで一番強く感じたのは、言葉が通じないとこんなに大変なのか!ということ。それです。まず、英語学習へのモチベーションが上がりました」
その一方で、彼の中の「外国の壁」は薄くなったという。「日本人以外の人種と触れ合うのは、難しいことじゃないんだ

青木智仁さん
文学部社会学科

ドイツを立つ日は涙が止まらなく、空港のゲートの中からも、ピーター・ヴィッツ先生に向かって何度も「ピーター!」と呼んだという青木さん。「彼はまるで、本当の父親のようでした」

と思えました。これは一番の収穫といえるかもしれません」
フリータイムで外出したとき、電車が止まるトラブルに見舞われた彼。友達とマップを見たり英語で人に聞いたりして、トラムや電車を乗り継ぎ自力で宿に戻った。そんな異国の地でのプチ・サバイバル体験も、彼を少し成長させてくれるひとつのきっかけとなったに違いない。



ずっと日本だけにいるのももったいないと思います!

Seiko Mizukami

Student's Voice

参加した学生に聞きました。

現地で異国の人と触れ合う機会の多かったベルリンキャンパス。加えて学生たちは、初めてのドイツ語や街並みにも刺激を受けたようです。



国際関係の仕事にも、興味がわいてきました。

Tomohito Aoki

今度は、長期でホームステイをしてみたいです。

海外に滞在する勇気をベルリンがくれた。
「授業はすごく面白いです。意欲のある子が集まっているので、発言も質問もしやすくて」
大学ではフランス語を専攻している水上さんだが、ここでは英語もドイツ語も楽しく勉強できたという。ゆっくりと英語を話してくれるピーター・ヴィッツ先生、そして友達のようにドイツ語を教えてくれる三枝子先生。ホリデー留学を通して、彼女はドイツが大好きになった。「ベルリンに行くまでは、崩壊した壁のことくらいしか知らなかった。でも風景や食べ物も含

めて、様々な角度からこの地に触れることができました。同時に、海外に長期滞在する勇気ももらった気がします」
行き先はどこでも、日本を出ると視野が広がる。母国の良さや狭さを再認識し、海外に目を向ける良い機会になったようだ。「今度は他の国にも行って、ホームステイをしてみたいですね。もちろん、長期で!」
水上市子さん
外国語学部外国語学科
少人数だったこともあり「仲の良い友達ができたと水上さんは話す。みんなと近くのスーパーで買い物に行ったり、毎日部屋で雑談をしたりと、オフの時間も楽しく過ごせたようだ。

United Kingdom

Teikyo University Group
London Campus

 帝京大学グループ
ロンドンキャンパス [イギリス]

静かなキャンパスで学習し、刺激いっぱい街へ出る。

イギリスの首都、ロンドン。各国からありとあらゆる民族が集まり、様々な言語が飛び交うヨーロッパの世界都市である。イギリス経済の中心地として先進的な顔を持つ一方で、バックingham宮殿やウエストミンスター寺院などの由緒ある建造物が多く見られるのも特長。古きと新しきが調和するヨーロッパの中でも有数の、歴史ある街だ。

また世界的に有名な大英博物館やナショナル・ギャラリーをはじめとする文化施設も。クラシック音楽やオペラのみならず、20世紀以降の音楽史に対する貢献度も高い。「ビートルズが歩いたアビー・ロードをこの目で見てみたい!」という音楽ファンも多いだろう。

あらゆる面で刺激満載のロンドンへは、日本から飛行機で10時間以上。決して近いとはいえない距離だが「一度は行ってみたい」と思う日本人も少なくない。ホリデー留学参加者は「本場の英語を学びたい」「一度も外国に行ったことがなかったから」と参加理由は様々だが、皆イギリスという国に魅了されたことは確かだろう。

帝京大学グループロンドンキャンパスは、豊かな緑が広がる閑静な田園地帯の中にある。バックinghamシャーと呼ばれる

この地域は10世紀以降、王族関係者の名前とともに、度々歴史に登場する由緒ある土地。近くにはイギリス王室の居城としても知られるウィンザー城も。シカヤリス、馬などの動物も見られる自然豊かな環境だ。

8万平方メートルの敷地を持つロンドンキャンパスは、広いグラウンドやシアター棟、温水プールなどの恵まれた施設を有している。学校のシンボルともいえる「マナーハウス」は、実業家の邸宅として100年前に建てられたもの。現在は校長室、職員室、事務室などに利用されている。同じ敷地の中に帝京ロンドン学園高等部があり、高校生も寝食をともにする3つの学生寮棟で、帝京大生は2週間という密度の濃い期間を過ごした。ここでロンドンキャンパスに来る学生と友達になり、一緒にスポーツをしたりと、楽しく過ごしていたようだ。

授業を担当してくれるのは、4名の外国人講師。もちろん、授業はすべて英語で行われる。「日本語を通じない」環境の中で、どれだけ耳を鍛え、コミュニケーションをとっていきけるかが重要だ。講師たちも、学生たちがヒアリングしやすいようゆっくりと発音してくれる。まずは、普段あまり使う機会のない英語に「慣れる」ことから始められる、最高の学習環境といえるだろう。

豊かな自然の中で生活しながら、本場の英語に触れる旅。

大きな邸宅などが建ち並ぶ、緑が美しい街。
帝京大生はここで、一日一日を大切に過ごしながら、英語に対する壁もゆっくりと溶けていくようでした。

Program Schedule

	午前	午後
1日目	ロンドンキャンパスへ到着	
2日目	オリエンテーション	ウィンザー城を見学
3日目	ロンドン見学: バックingham宮殿衛兵交代、大英博物館	
4日目	授業	イギリスの病院を見学し、スーパーマーケットへ
5日目	オックスフォード見学	アウトレットショッピングセンター「Bicester Village」へ
6日目	授業	ファミリービジット
7日目	授業	近くの国立公園までウォーキング
8日目	授業	授業
9日目	パリへ旅行	
10日目	(ロンドン〜パリを結ぶ鉄道「ユーロスター」で移動し、パリ市内のエッフェル塔やルーブル美術館、郊外のヴェルサイユ宮殿などを見学)	
11日目		
12日目	授業	ミュージカル鑑賞
13日目	ロンドン見学: ナイチンゲール博物館など	
14日目	スピーチコンテスト	晩餐会
15日目	授業・ゲーム大会	日本へ帰国

ロンドンキャンパス マナーハウス



19:30

初めての人も慣れている人も、本場で一緒にスヌーカーをプレイ。スヌーカー場までは、キャンパスのバスで20分ほど。色によって点数の異なるボールを落として合計点を競うこのゲームに、苦戦しながらも楽しむ。



15:00

我が子のようにもてなしてくれた、イギリスのやさしい父と母に感謝。

ファミリービジット3家庭のうちのひとつ、ロックさん宅。数年に渡りホームステイ先として日本人学生を受け入れてきた彼らは、帝京大生にも「専攻は何?」「兄弟はいるの?」など、ゆっくりと英語で話しかけてくれた。



A Day Schedule

- 7:30~8:30 朝食
- 9:00~9:50 授業 / イギリスのロイヤルファミリー
- 10:00~10:50 授業 / イギリスのスポーツと趣味
- 11:00~11:50 授業 / イギリスの住文化
- 12:00~13:00 昼食
- 15:00~ ファミリービジットへ
- 18:15~19:00 夕食
- 19:30~ スヌーカー場へ
- 22:00 キャンパス帰宅



14:00

お互いの部屋に集まれば、おしゃべりにも花が咲く。

ひとり部屋だったものの、すっかり仲良くなった学生同士はお互いの部屋でつろぐ時間も徐々に多くなった。3人集まってもこんなに広々。



9:00

コミュニケーションを取りながら、イギリスの言語と文化を学ぶ。

授業は食事やお祭り、趣味など毎回テーマを変えてイギリス文化に触れながら、英会話を学んでいく。プログラムの中にはイギリスと日本を比較した英字新聞を作り、発表する場面も。



12:15

広々としたガーデンで昼食。木々の匂いに安らぎを感じる。

春とはいえ、気温はまだ低いので厚着をして外へ。用意されたランチボックスの中身はサンドイッチ、リンゴ、チップス、ジュース。



13:00

思い出に残る、一生に一度のバースデーパーティ。

昼食後、先生のひとりであるサムが、バースデーを迎えた学生のために、ドーナツの上にキャンドルを立ててプレゼント。イギリスらしいサプライズに、思わず感動!

A Day Reporting

とある1日に、密着しました。

現地のイギリス文化に、どっぷり浸かったこの日。緊張することも多かったけれど、その分たくさんの思い出が胸に刻まれ、忘れられない一日となったようです。



7:30

日本人でも親しみやすい、ブレックファースト。

基本的にはイギリス料理だが、日本人の口に合うよう工夫された朝食。主食は白米のほか、トーストやシリアルなど数種類から選べる。サラダバーもある。

主役の学生の顔もほころんだ。午後はメインプログラムのひとつであるファミリービジットへ。3グループに分かれて、それぞれがロンドンの家庭へアフタヌーンティーを楽しみに行った。あるグループが訪れたのは、キャンパス近くのロックさん宅。初めてイギリスの個人宅にお邪魔する学生たちは、建物の色彩や小物のかわいらしさ、ヨーロッパらしい暖炉などにため息を漏らす。最初は少し緊張気味だったが「初めの紅茶は苦いからお砂糖を入れるのよ」などと教えられながら本場のイングリッシュティーを楽しむうちに、みんなの表情も緩んでいった。奥さんが腕を振ったキッシュにポークパイ、サンドイッチに、チョコレートをたっぷり使ったケーキなどを堪能し、再会を約束してお家を後にする。

夕食の後、希望者はキャンパス近くのスヌーカー場へ向かった。スヌーカーとはビリヤードの一形態で、イギリスではとてもポピュラー。引率してくれたキャンパスのスタッフのもと、ルールからキューの持ち方までやさしい英語で説明を受ける。まだ手つきは慣れないものの、あちこちで歓声が上がるとみんな思い思いに楽しめたようだ。授業から数力所にわたる外出まで、盛りだくさんだった一日。きつとみんな、夜はぐっすり眠れたに違いない。

現地の文化に触れて、ロンドンを楽しむ。

ロンドンキャンパスの食堂は7時半にオープンする。学内の寮で暮らしている高校生や日本以外の国から来た留学生、そして先生たちも利用するため、この食堂は朝から活気がいっぱいだ。

食事が終わると、各々が9時からの授業に備える。人数が多いため、授業は3クラスに分かれて開始。1クラス50分のショートプログラムが、午前中に3コマある。4人の先生もローテーションで、3つのクラスを行ったり来たり。学生たちも飽きることなく講義に耳を傾け、発言にも熱が入った。

通常は食堂で昼食を取るが、この日は天気がよかったためランチボックスを持って外へ。大きな木の下で、ゆっくりと時間が流れてゆく。一人ひとりのお気に入りの場所も違っていた。

食事を終えると「みんな食堂に集まって」と先生の声が入る。見ると、テーブルにカラフルなドーナツが並べられていた。「ハッピーバースデー!」

この日は、参加者のひとりの誕生日。学生との会話の中からそれを知った4人の先生が、サプライズを企画してくれたのだ。有志の学生がカードを用意し、みんなでメッセージを書き込む。予期せぬプレゼントに、

日本の学生は真面目で、とても礼儀正しいです。

「授業を聞きなさい」と言わなくても、スムーズに進められるのが素晴らしい。イギリスと比べて、日本の学生はともしつけが行き届いていると思います。

ルーシー・メイソンさん



昨年オックスフォード大学を卒業した22歳。6月には、ロンドン中等学校で理科の先生の仕事を始める。

学生たちの成長が、目に見えてわかりました。

初めはシャイで英語を使うことを躊躇していた学生たちも、徐々に話し始めたことが嬉しかったです。最後の方は、質問も積極的にしてくれるようになりました。

ピアンカ・アネチテイさん



オックスフォード大学で、歴史学とフランス語学を専攻する22歳。とにかくいつも笑顔で明るい！

英語上達の秘訣は、リラックスして話すこと。

みんな、とても楽しんで授業を受けているように感じました。友達や家族と一緒にいるときにリラックスして話せば、英語もすぐに上達すると思います。

タニア・スヘルデさん



モスクワ州立大学外国語学部卒業。外国人に英語を教える傍ら、現在はロシア語の法廷通訳としても活躍中。

先生と生徒だけでなく、友達みたいな関係です。

日本の学生は静かに授業を聞いてくれるから、とても授業が進めやすかったです。自分と同じ年頃の彼らと交流をすることで、日本への興味が深まりました。

サム・グリーンバリーさん



22歳。オックスフォード大学の卒業生。趣味は旅行で、異なる文化を持つ魅力的な人と出会うのが好き。

Location



Teikyo University Group
London Campus

Framework Road Wexham
Buckinghamshire SL2 4QS UK
tel: +44 (0)1753-663711

School



勉強ばかりでなく、体を動かす設備を併設。

プールやサッカー場、ジムや体育館などの設備がある。夕食の後にバドミントンやバスケットをしたりと、体を動かす学生も多い。

Room



まるで自分の部屋のように広々とくつろげる。

2段ベッドに勉強机、タンス、ソファ、バスルームを完備。広々としているので、ランドリールームで脱水をした洗濯物を干すこともできる。

Food



ソーセージにポテト、そしてポイルされた野菜。白米も食べられる。



典型的な英国式の朝食にお味噌汁。日本人はこれで元気が出そう。



人生に活かせるようないい経験ができました。

日本語が通じない、最高の環境で英語を学びました。

語学力も人間性も育つ場所だと思います。「今まで頭で考えて英語を聞いた話したりしていたけど、難しい文法はともかく、大分すんなりと会話ができるようになったと実感しています」最後の晩餐会で「通訳が上手」と先生たちから表彰をされた松丸さん。友達が言いたいことをうまく英語にできなかったとき、意思疎通の手伝いをしてあげたことが評価されたようだ。「日本で英語を学んでも、授業が終われば日本語に戻ってしまう。でもロンドンでは、日本語で話しても絶対に日本語では

松丸忠広

医療技術学部臨床検査学科

ホリデー留学で、医療機関の見学も体験した松丸さん。「国や言葉が違っても、病院の設備や根本的な使命は世界共通。『医療』という問題は、国境を越えると改めて実感しました」

返ってきません。英語を身につけるための、最高の環境でした」また、彼は仲良くなった高等部の生徒と、休み時間にサッカーをして遊ぶこともあったという。「高等部の生徒はみんな礼儀正しくて、親切な子ばかりでした。きっと環境がいいからなのでしょう。良い人間性が育つという意味でも、学習するのに最適な場所だったと思っています」

Student's Voice

参加した学生に聞きました。

「英語を話すのが恥ずかしい」という気持ちが、日に日に薄れていく自分に気付く。ロンドンキャンパスは、そんな学生で溢れていました。



Tadairo Matsumaru

ヨーロッパの街並みや文化に興味を覚えました。

初めての外国で、日本との違いを実感。初めての海外にロンドンを選んだ幸田さんが、一番印象的だったと話すのは街の建築物。「ロンドンには、昔の建物が今も至るところに残っているんです。パリでも外観を考え、洗濯物を中に干したり。100年以上前のマンションが残っていたりと、こういう形で自分の国の文化を守っているところが日本と違うなと思いました」授業でも、最後のスピーチコンテストではロンドンと日本の建築の違いについて話したという彼女。将来は観光関係の仕事

牟田友里恵さん

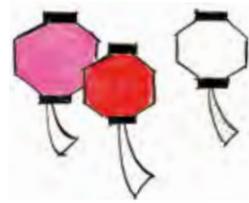
経済学部観光経営学科

キャンパスでお世話をしてくれた女の子、アリスンとも仲良くなった。「よく私たちの部屋に遊びに来てくれました。メールアドレスを聞いたので、一緒に撮った写真を送るつもりです」

に就きたいと考えていることもあり、いろいろな国の文化をもっと知りたいと思ったという。「同時に、英語学習への意欲もわいてきました。希望の仕事に就くことができれば、外国人のお客さんともスムーズにやり取りできるようにしたいです」言葉を知るだけでなく、文化を知ることで、もっと外国人との距離は近くなるはずだ。



Yurie Muta



16:00

ドラマの舞台にもなった、華城行宮に圧倒される。

日本語の堪能なガイドさん（赤い帽子がキュート）が、一つひとつの建物について丁寧に説明してくれた。ドラマの舞台だったこともあり、行宮内には撮影当時の写真も。



15:00

真っ赤な華城列車に乗って、世界遺産を見物。

華城列車で片道30分の旅。李氏朝鮮王朝末期に作られた水原華城は、1997年に世界遺産に認定された。華城王宮を中心に、歴史的建造物が多数残っている。



대한민국

A Day Schedule

- 7:30~8:20
朝食
- 8:40
バスで大学へ移動
- 9:00~9:50
授業 / 韓国語会話
- 10:00~10:50
授業 / ハングル入門
- 11:00~11:50
授業 / 韓国歴史と文化
- 12:00~14:00
主題別活動「ビビンバづくり」
- 15:00~
華城見学→自由行動 / 水原市内へ。買い物などを楽しみ、夕食も自由にとる。
- 22:00
ホテルに帰宅



17:30

屋台に焼肉、チゲ鍋…。美味しそうな匂いに目移り。

食い倒れしそうなほど、ホットで旨い韓国料理屋が軒を連ねる水原の中心街。ベーシックな焼肉（サムギョプサル）から屋台で買えるトッポギまで、その選択肢は広い。もちろん学生たちは、お店のスタッフとも自分の力でコミュニケーションをとる。

ビンバが、こんなに手の込んだ料理だとは思わなかった！と、学生たちも驚きの色を隠せない。出来上がったビンバは彩り豊かで、プルコギからも食欲をそそるニンニクのいい匂いが漂う。美味しい昼食に舌鼓を打っているうちに、彼らの会話も自ずと弾んでいった。

続いて、一行は先生の引率のもと、ユネスコ世界文化遺産でもある「水原華城」へと出かけた。元々「歴史的な世界遺産を見たかった」と話していた学生は、本物を見ることができて感無量の様子。真っ赤にペイントされた華城列車に乗り、東京ドーム約28個分にもなる広大な敷地をのんびりと巡る。その後は、韓国の中で最も規模が大きく美しいと称される華城行宮へ。元々は官庁として利用されていたが、敷地拡大後は王が地方に行く際の宿泊所としても使われたという。韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」の撮影場所だったこともあり、ファンタジーの学生は歩きながら何度もシャッターを切った。きつと歩いたときに、ドラマのワンシーンが頭に浮かんできたらう。

盛りだくさんの一日を終え、水原の中心街へ移動。夕食を兼ねて自由行動となった学生たちは、美味しそうな店頭の写真を見ながらどこに入るのかと頭を悩ませる。さてみんな、何に舌鼓を打ったのだろうか…。

A Day Reporting

とある1日に、密着しました。

キャンパスのある水原市周辺には、歴史的建造物がたくさんあります。学校で言語と食文化を学んだあとは、みんなと一緒に荘厳な王宮へと足を運びました。



12:00

韓国の伝統料理づくりでコミュニケーションを深める。

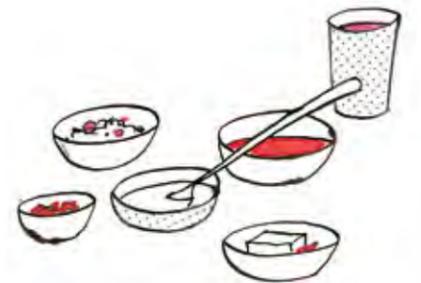
この日はビビンバとプルコギの調理実習を行うことに。学生たちは韓国語が英語で、積極的に先生と会話しながら進める。共通の目標に向かって作業していると、言語の壁もなくなるようだ。



7:30

1日の始まりは朝食から。しっかり食べて授業に臨みます。

ホテルの朝食はバイキング形式。白米、焼き魚、韓国海苔、みそ汁などのなじみ深いメニューが。キムチが用意されているところはさすが韓国。



9:00

韓国の視点で行われる授業は、わかりやすい日本語で。

「韓国の歴史と文化」の授業で、大韓民国の成り立ちを教わる。先生は美しい日本語で授業を進めてくれるので、韓国語のわからない学生でも理解できる。



この日の午後は、韓国の代表的料理であるビビンバとプルコギをみんなで作ることに。ビンバとは「混ぜごはん」という意味。もやしやにんじんなどの馴染み深い野菜のほか、韓国で親しまれている「トッポギ」（キョウウの根）のような珍しい食材も用い、先生の指導のもと二手に分かれて調理を行った。「ビビンバが、こんなに手の込んだ料理だとは思わなかった！」と、学生たちも驚きの色を隠せない。出来上がったビンバは彩り豊かで、プルコギからも食欲をそそるニンニクのいい匂いが漂う。美味しい昼食に舌鼓を打っているうちに、彼らの会話も自ずと弾んでいった。

学生たちが宿泊していたのは、水原大学から車で5分ほどのところに位置するホテル「ラビドル」。1日の始まりは、ホテルの朝食で幕を開ける。主食は白米だけでなく、黒米を炊き込んだ体によさしいごはんからトーストまで種類はいろいろ。おかげで日本の朝食に近いラインナップだが、本場・韓国の味も同時に楽しむことができる。

各々がエネルギーを補給したあとは、大学までの送迎バスに乗り込んで登校。通常は午前中に韓国語会話、ハングル入門、歴史や文化などの授業を教室で受け、午後からは実践的に韓国の文化を学ぶための「主題別活動」へと移る。日によっては午後のプログラムに市内観光や自由行動の日が設けられているため、午前中に韓国語を習い、午後は実際に外で使ってみるという実践的な機会にも度々恵まれたようだ。

韓国の文化・歴史を肌で感じる一日。

韓国人との触れ合いが、
韓国を知る一番の近道。

今回、一般的に帝京大生のお世話をしてくださった宋さん。数あるプログラムの中で特に力を入れたのは、家庭訪問だ。「水原大生と友達になったり、一般家庭に宿泊したりすることで、韓国のことをより深く理解してもらえたと思っています」

韓国人と多く触れ合いながら、短期間での修得が困難な韓国語や文化に対する知識を補う。その狙い通り、帝京大生は3週間で見違えるほどの成長を遂げた。「今後は学内に、ホリデー留学生を援助する学生グループを作るつもりです。帝京大学への留学生も増えたら嬉しいです」



宋占鍾さん
国際協力室

宋さんは学生の宿泊施設や食事、移動手段、そしてプログラムの企画などを行ってくれた。「帝京大生たちは一生懸命勉強に取り組んでおり、非常に良い印象を受けました」

李成根さん

日本語科教授、文学博士

キャンパスでは、韓国語会話の授業を担当。「日本の学生はおとなしいですね。でもここに来たきっかけを聞くと、みんな自分のやりたいことが明確。しっかりしていると思いますよ。」



問題解決能力を養うためのサポートをします。

「短期間で韓国語をマスターするのは難しいですよ。だから、まずは言葉に親しみをもち、まらうことを目標としています」李先生が授業で教えているのは、街に出てすぐに使える韓国語。しかし時間が限られているため、すべては教えられない。「必ず足りない言葉が出てくる。するともっと知りたくなって、

自ら学ぶようになるんです」簡単な日常会話をベースに、実生活で困ったら自分で解決する能力をつける。それが、このキャンパスの狙いでもあるのだ。

Location



水原大学校

京畿道 華城市 峰澤邑 臥牛里 山2-2
tel: +82-(0)31-222-2101~4

School



インターナショナルな大学として
発展を続ける水原大学校。

国際化に対する意識が高まっている水原大学校。今後も教育院を拡大しプログラムを整えて、今まで以上に国際交流に力を入れていくという。

Room



「ただいま」と言いたくなるほど
快適な滞在。

大学にも寮があるが、春休みは入れ替え時期のため帝京大生たちは近くのホテル「ラビドル」に寝泊まり。近々新しい寮を建設予定だという。

Food



大根のつけ汁にめんを入れた「キムチマリッコクス」はごま油風味。



キムチと豚肉のチャーハンに目玉焼きを乗せた「キムチボックンパ」。



Korea

現地の学生と仲良くなれて、とても嬉しいです。

「韓国人の友達を100人作りたい！」という、壮大な目標を持ってホリデー留学に参加した奈良さん。そんな彼にとって一番重かったのは、やはり現地の学生との交流だったようだ。日本語学科の教室に顔を出したり、大学近くの食堂やカラオケ店に一緒に行ったりして、すっかり仲良くなった。

奈良郁弥さん
経済学部経済学科

奈良さんは「Kポップ」好きが高じて、韓国に興味を持ち始めた。ホリデー留学の収穫のひとつとして「人と接するとき『こういう意見もあるな』と考え方が柔軟になったこと」だという。

楽しく会話するために、もっと語学力をつけたい。

1年間の交換留学制度があることを教えてくれました。今、真剣に参加を考えています」

滞在中は辞書を片手に、わからない単語を調べつつ会話を楽しんだという彼。友達ができれば、スムーズにコミュニケーションを取りたいと思うのは自然な流れだろう。100人目の韓国人友達ができる日も、そう遠くはないかもしれない。



春休みに行けるのも、ホリデー留学のいいところ。

Yurina Mano

Student's Voice

参加した学生に聞きました。

日本語の話せるスタッフが多いにも関わらず、積極的に現地の言葉を使おうと努力する帝京大生が印象的な韓国でした。



ますます韓国のことが好きになりました。

Fumiya Nara

授業もホームステイも実りある時間でした。

韓国に訪れるたび、素敵な経験が待っている。間野さんが韓国を訪れるのは、もう4回目。元々韓国語を勉強していた彼女は、音声学の先生による発音の指摘について「読み方の基礎を改めて学ぶことができた」と嬉しそうに話す。「ハンゲルは読めても、声に出すときに間違っていたら、先生に修正してもらってからは、ホテルのフロントでも言葉が伝わるようになりました」

「お夕飯がとにかく豪華。スンドゥ、という豚の腸詰めを食べたことにはある？と聞かれたので、いって答えたら、お父様が買い出しに行ってくれたんです」

帰り際も「あなたのご両親に」と、お酒や韓国海苔などをたくさん持たせてくれたという。韓国の温かい人情が、また彼女をこの地に呼び戻すのだろう。

間野祐梨奈さん
文学部日本文学科

韓国のアイドルに魅了され、韓国語を学び始めた間野さん。「彼らの曲を聴いて、歌詞の意味がわかると嬉しい。将来韓国に住むことも視野に入れ、日本語教師の資格を取るべく奮闘中。

Interview

with President

学長が語る、留学のこと

学生時代に留学することの大切さって？
帝京大学の沖永学長は、ホリデー留学の意義についてこう考えています。

Yoshihito Okinaga

学生時代の海外留学は、
自分を知るためにも有意義。



沖永佳史 帝京大学学長

1973年生まれ。慶応義塾大学工学部を経て、同大学院理工学研究科機械工学専攻修士課程修了。93年、沖永学園理事長に就任。その後帝京平成大学副理事長に就任。2002年1月の帝京大学理事長就任後、同年10月より学長を兼任。

海外留学とは、自分を見つめ直す好機である。「自分という存在を感じられること。これが、留学の一番大きな意義ではないかと思えます」異文化圏に身を投じること、育った環境を顧みることが出来る。それがやがて、自分の本来の姿を俯瞰で見ることにつながっていく。言語や歴史を学ぶことの他に、人間の充実という側面からも留学には様々な利点があると沖永学長は語った。「それに、学生にはまだ素直で無邪気な部分があります。留学は、その性質を積極的に活用できる減多にない機会ですよ」とはいえ、急に長期留学をするとなると尻込みをしてしまう学生も多いだろう。外国に対する興味を喚起し能動性を醸成するという意味でも、シヨートチームのホリデー留学は最適、というのが学長の見解だ。「仕事はもちろん、生きていく上でのいい経験にもなるでしょうし、新しいことを始めるための前向きな姿勢に消化していくこともできるでしょう。大学の3つの柱のひとつである「国際性」という面からも、非常に有意義な時間だと感じています」学長自身、今でも海外に滞在して仕事や勉強をしてみたいと言っ。たっぷりある時間を有効に使えること。それは、学生の特権ともいえるのかもしれない。

Outline

of Going Study Abroad

ホリデー留学までの流れ

留学のイメージをふくらませたところで、ここでは、ホリデー留学プログラムの申込みから出発までの流れを追います。

ホリデー留学に関する問い合わせ
帝京Study Abroad Center (T-SAC)
TEL: 042-678-3237, 3533 FAX: 042-678-3544
e-mail: t-sac@main.teikyo-u.ac.jp

1 プログラム概要

まずは、希望の留学先を決めましょう。

留学期間	15～20日間(国によって異なる)。原則、夏期休暇と春期休暇の年2回。
対象	帝京大学／帝京短期大学／帝京大学短期大学の全学部・全学科に在籍する学生。(※帝京大学グループの学生も一部参加可)
留学先	 <p>ドイツ イギリス 韓国 フランス アメリカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝京大学グループ ベルリンキャンパス(ドイツ) ・帝京大学グループ ロンドンキャンパス(イギリス) ・水原大学校(韓国) <p>※2010年夏より、パリ・アドヴァンシア大学(フランス)、ジョージア州・コロンバス州立大学(アメリカ)も実施予定。</p>

※単位認定の詳細については、T-SACまでお問い合わせください。

2 申込みまでの流れ

留学先を決めたら、帝京スタディーアブロードセンター(T-SAC)で申し込みを。

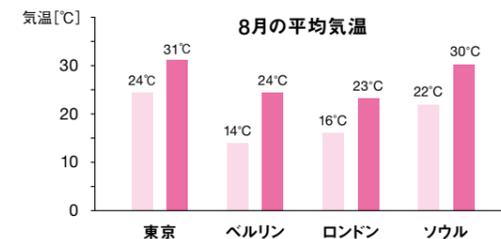
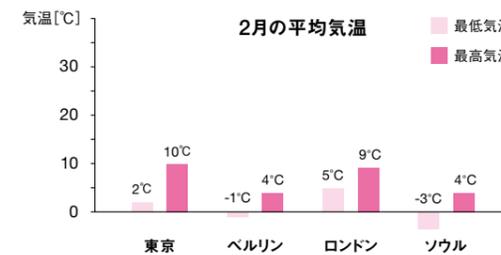


3 出発の準備

現地の生活情報を事前に調べて、快適な留学生活が送れるように準備を心がけましょう。

・気候

日本とは、気候も異なります。出発前に現地の気温を調べて、十分な衣服を揃えていきましょう。



・お金

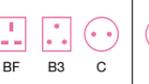
現地の空港や銀行でもできるが、いづらかは日本で両替していくのがよい。クレジットカードや国際キャッシュカードも持って行くとう便利です。

ドイツ	1€(ユーロ) = 約114円
イギリス	1£(ポンド) = 約130円
韓国	1000W(ウォン) = 約75円

※2010年5月20日現在の情報です。為替レートは随時確認してください。

・電源

国によって電圧やコンセントの差し込み口が異なります。電化製品を持っていく場合は、変換プラグや変圧器を持っていくとよいでしょう。

	ドイツ	イギリス	韓国
プラグタイプ			
電圧	220V	240V	110V, 220V

※日本のプラグはAタイプ。